

久米郡札三十三所観音霊場（上古川）（中田）

古くから^{げん せ り やく}現世利益の観音信仰や地蔵信仰があり、各集落にお堂や石佛が見られた。

観音菩薩は正しくは、^{かん ぜ おん ぼ}観世音菩薩^{さつ}といい、人々の救いを求める声を観じると、三十三態に^{け しん}化身し、救済の手を差し伸べるという。

人々は、ご利益を祈念して、^{さん}三十三所の観音霊場巡りの旅へ出た。四国の八十八ヶ所巡り（遍路という）や^{さいこくさんじゅうさんしよめぐ}西国三十三所巡りなどが有名である。

その地方版として考えられたのが、^{こおりふだ こく ふだ}郡札、一国めぐり札などである。

^{く め こおりふだ}久米郡札三十三所観音霊場は、一番打吹山長谷寺から始まり、三

十三番金地福山定光寺（和田）で満願する。上小鴨地内では、上古河堂（十番）と中田堂（十一番）の二ヶ所があった。二堂とも、今は堂宇は無く「堂の前」とか「堂の^{かど}門」などの名称と堂跡の標柱があるのみである。三十三所のうち、十一所がお寺境内にあり、その他は、村（一部有志）が管理している。

ご本尊仏は、十一面観音像が一番多く14ヶ所である。

（出典：『久米郡三十三所観音霊場雑記』福田良徳）



本尊十一面観世音菩薩
二十四番札所 上神波松山観音堂